

3-2 東北地方の地殻変動 Crustal Movements in the Tohoku District

国土地理院
Geospatial Information Authority of Japan

[GNSS 東北地方太平洋沖地震後の変動ベクトル及び等変動量線図]

第1～5図は、東北地方太平洋沖地震後における水平・上下の地殻変動について、全期間の累積及び最近3か月間の変動を、福江観測点を固定局として示したものである。第1～3図に示す地震後の累積の図には、2011年4月7日宮城県沖の地震（M7.2，最大震度6強，深さ約66km，逆断層・スラブ内地震，地殻変動GNSSで水平約3cm西南西と約5cmの隆起），2011年4月11日福島県浜通りの地震（M7.0，最大震度6弱，深さ約6km，正断層，地殻変動GNSSで約30cm水平と約50cmの沈降，SARで約2m），2011年4月12日長野県北部の地震（M5.6，最大震度5弱，深さ約0km，横ずれ，地殻変動北東へ約2.6cm），2011年4月12日千葉県東方沖の地震（M6.4，最大震度5弱，深さ約26km，右横ずれ，地殻変動約1cm），2011年6月23日岩手県沖の地震（M6.9，最大震度5弱，深さ約26km，右横ずれ，地殻変動約1cm），2011年7月10日三陸沖の地震（M7.3，深さ34km，最大震度4，地殻変動西方向に約5mm，左横ずれ），2011年9月17日岩手県沖の地震（M6.6，最大震度4，プレート境界逆断層，地殻変動東方向に数mm）等の影響が震源近傍の観測点で見られる。

第1図は地震後の全期間における水平変動の累積を示している。東日本全体で東北地方太平洋沖地震の震源域に向かう余効変動が観測されている。最大の変動量は、岩手川崎A観測点における約145cmである。

第2図及び第3図は、地震後の全期間における上下変動の累積を、それぞれ、変動ベクトル図及び等値線図で示したものである。岩手県三陸沿岸と奥羽脊梁山脈付近で沈降が見られる一方、宮城県から千葉県の太平洋沿岸では隆起傾向が見られる。M牡鹿観測点の約58cmの隆起のうち約5cmは、2011年4月7日の宮城県沖の地震によるものである。

第4図の最近3か月間の水平ベクトルには、東日本全体で東北地方太平洋沖地震の震源域に向かう変動が見られ、余効変動が継続していることが分かる。この期間における岩手川崎A観測点の変動量は1.2cmとなっている。

第5図に最近3か月間の上下変動を示す。牡鹿半島付近で僅かな隆起が見られるが、全体的には余効変動の上下成分は小さくなってきており、3か月間の変動ではノイズレベルとほぼ同等となっている。

[GNSS 連続観測 東北地方太平洋沖地震後]

第6～11図は、東北地方太平洋沖地震後の東日本におけるGNSS連続観測時系列である。第6図の地図に示した太平洋岸の観測点10点と、その西側の観測点10点の合計20観測点について、第7図以降に東北地方太平洋沖地震後の期間の時系列を示す。各成分の縦軸は、本震直前の値をゼロとしており、地震時及び地震後の累積の変動量を表している。そのため、沈降した地盤が地震前の高さに戻るかどうかは、上下成分がゼロに回復するかどうかで判断できる。

第7～11図の各観測点の時系列では、東北地方太平洋沖地震の余効変動が減衰しながらも継

続している様子が見られる。また、第6図の地図に示した各地震の影響が、震源近傍の観測点で見られる。

第7～9図上段に示す太平洋岸の10観測点では、(2)岩泉2観測点と(3)山田観測点を除き、地震直後から隆起が継続している。なお、岩泉2観測点及び山田観測点についても、2013年以降はそれまでの沈降傾向が反転し、隆起となっている。

第9図下段から第11図の西側の観測点10点では、地震直後からの沈降、又は隆起が減衰しながらも継続している。

[GNSS 東北地方太平洋沖地震前後の地殻変動速度]

第12～17図は、三隅観測点に対する宮古、山田、矢本、相馬1、銚子、皆瀬観測点の変位と変動速度を時系列で示したものである。どの観測点においても、水平変動速度は徐々に減衰しつつあるが、地震前の速度には戻っておらず、余効変動が継続していることが分かる。上下変動速度は、銚子観測点では元の速度に戻りつつあるが、そのほかの宮古、山田、矢本、相馬1観測点は隆起傾向、皆瀬観測点は沈降傾向が続いている。

第12図の三隅－宮古基線及び第13図の三隅－山田基線の東西成分の速度に2015年初頭に見られる一時的な変化は、2015年2月17日に発生した三陸沖の地震及び2015年5月13日に発生した宮城県沖の地震によるものである。

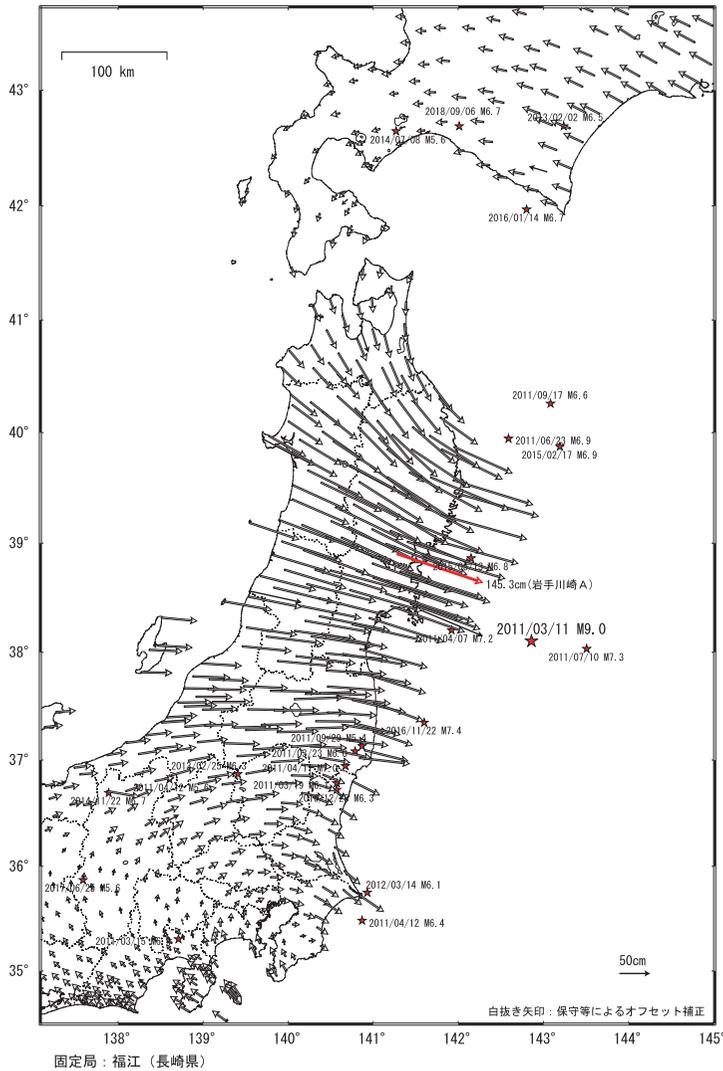
第15図の三隅－相馬1基線の東西成分・南北成分の速度に2016年末頃に見られる一時的な変化は、2016年11月22日に発生した福島県沖の地震によるものである。

第16図に示される三隅－銚子基線の変化のうち、南北成分の速度に2011年秋、2014年初頭及び2018年夏に見られる一時的な変化は、それぞれ2011年10月下旬頃から11月上旬頃まで、2014年1月上旬頃及び2018年6月頃に発生したSSEに伴う地殻変動の影響、東西成分速度の2012年3月頃に見られる一時的な変化は、2012年3月14日に発生した千葉県東方沖の地震（M6.1）によるものである。

東北地方太平洋沖地震 (M9.0) 後の地殻変動 (水平) —累積—

東北地方から関東甲信越にかけて東向きの変動が見られる。

基準期間 : 2011/03/12 — 2011/03/12 [F3 : 最終解]
比較期間 : 2018/10/28 — 2018/11/03 [F3 : 最終解]

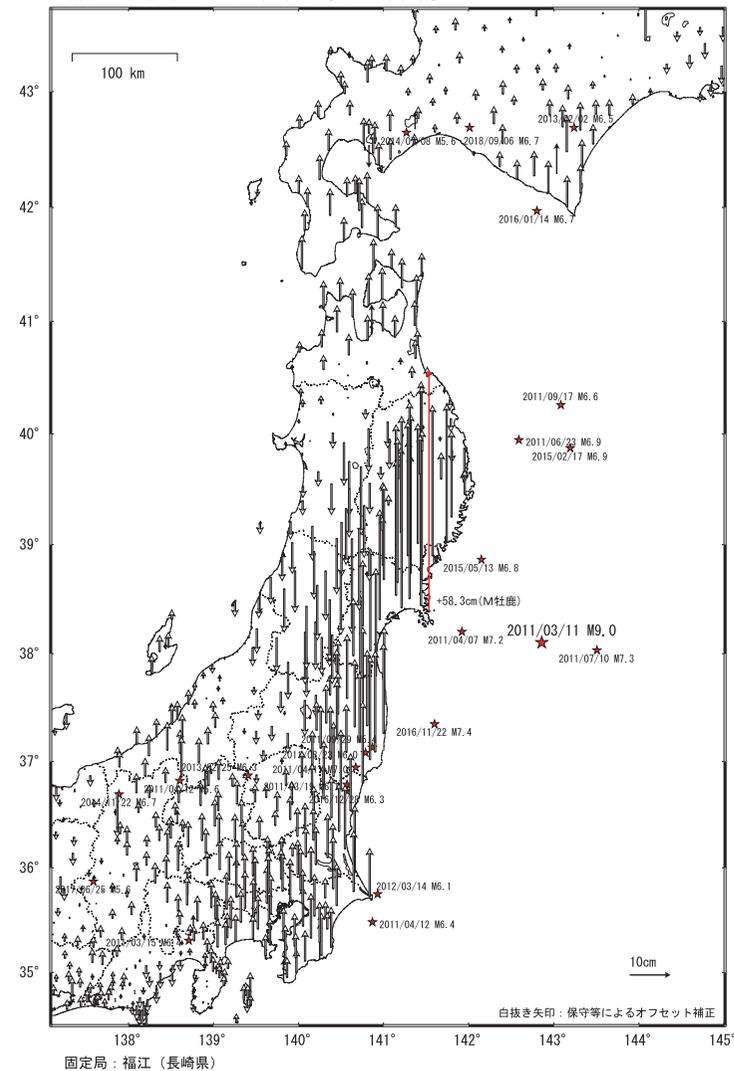


第1図 2011年東北地方太平洋沖地震後の累積地殻変動 (水平)
Fig. 1 Accumulated crustal deformation after the 2011 off the Pacific coast of Tohoku Earthquake (horizontal).

東北地方太平洋沖地震 (M9.0) 後の地殻変動 (上下) —累積—

宮城県から千葉県にかけての太平洋沿岸に隆起が、岩手県沿岸北部と奥羽脊梁山脈付近に沈降が見られる。
関東甲信越地方及び青森県から北海道の襟裳岬付近にかけた地域に隆起が見られる。

基準期間 : 2011/03/12 — 2011/03/12 [F3 : 最終解]
比較期間 : 2018/10/28 — 2018/11/03 [F3 : 最終解]



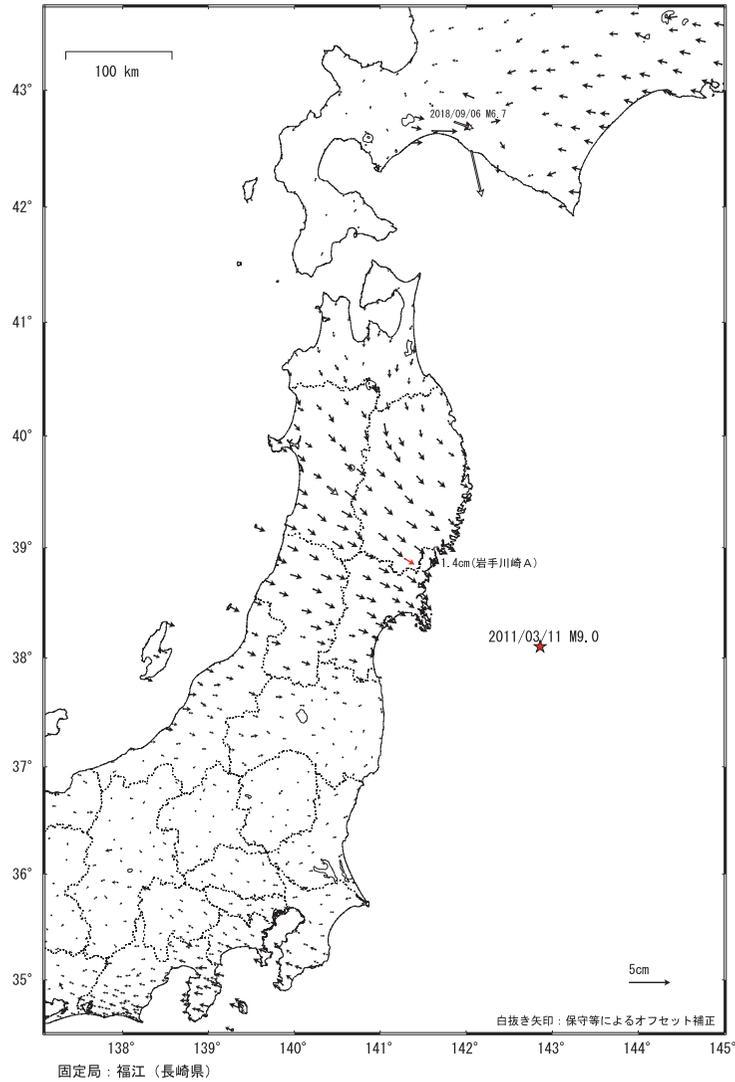
第2図 2011年東北地方太平洋沖地震後の累積地殻変動 (上下)
Fig. 2 Accumulated crustal deformation after the 2011 off the Pacific coast of Tohoku Earthquake (vertical).

東北地方太平洋沖地震 (M9.0) 後の地殻変動 (水平) - 3 か月 -

東北地方を中心に東向きの変動が見られる。

基準期間 : 2018/07/28 - 2018/08/03 [F3 : 最終解]

比較期間 : 2018/10/28 - 2018/11/03 [F3 : 最終解]



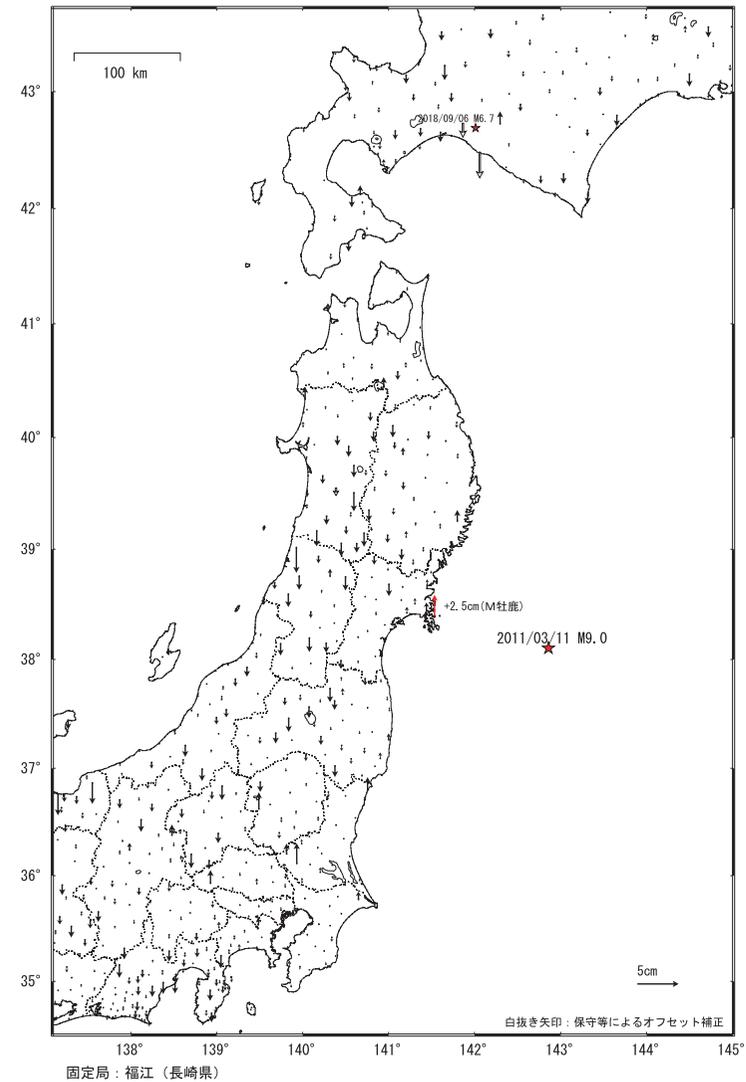
第4図 2011年東北地方太平洋沖地震後の地殻変動 (最近3ヶ月、水平)
Fig. 4 Crustal deformation after the 2011 off the Pacific coast of Tohoku Earthquake (three months , horizontal displacement).

東北地方太平洋沖地震 (M9.0) 後の地殻変動 (上下) - 3 か月 -

特段の変動は見られない。

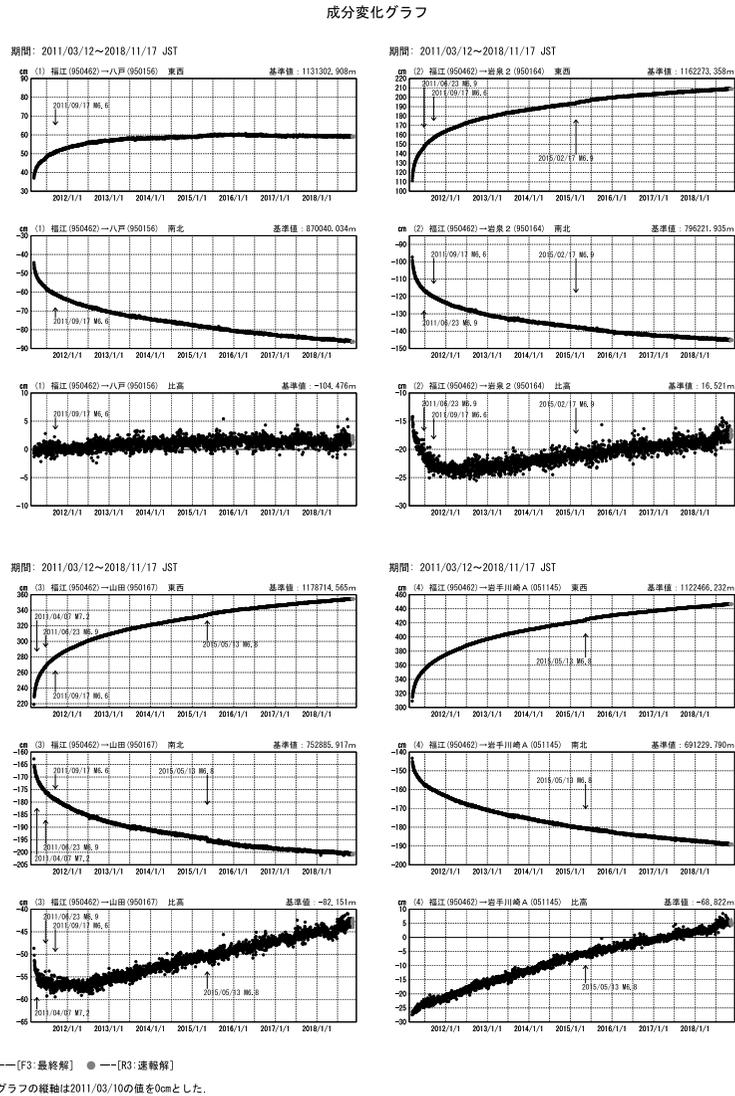
基準期間 : 2018/07/28 - 2018/08/03 [F3 : 最終解]

比較期間 : 2018/10/28 - 2018/11/03 [F3 : 最終解]



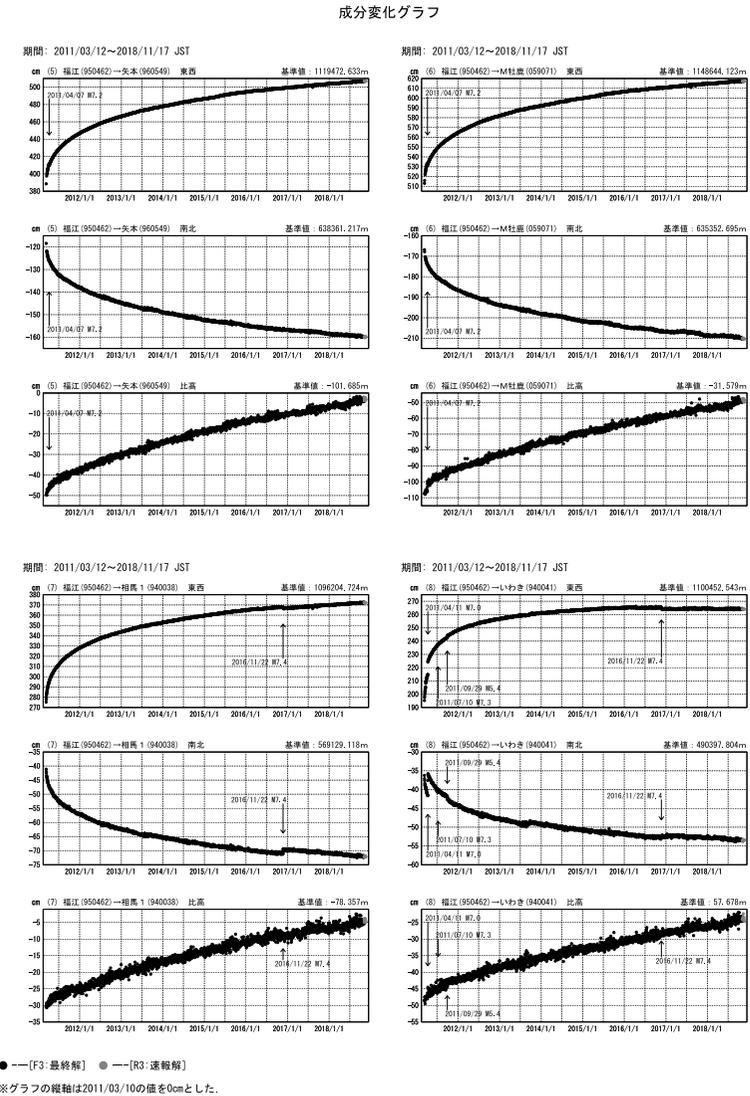
第5図 2011年東北地方太平洋沖地震後の地殻変動 (最近3ヶ月、上下)
Fig. 5 Crustal deformation after the 2011 off the Pacific coast of Tohoku Earthquake (three months , vertical displacement).

平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震後の地殻変動（1）



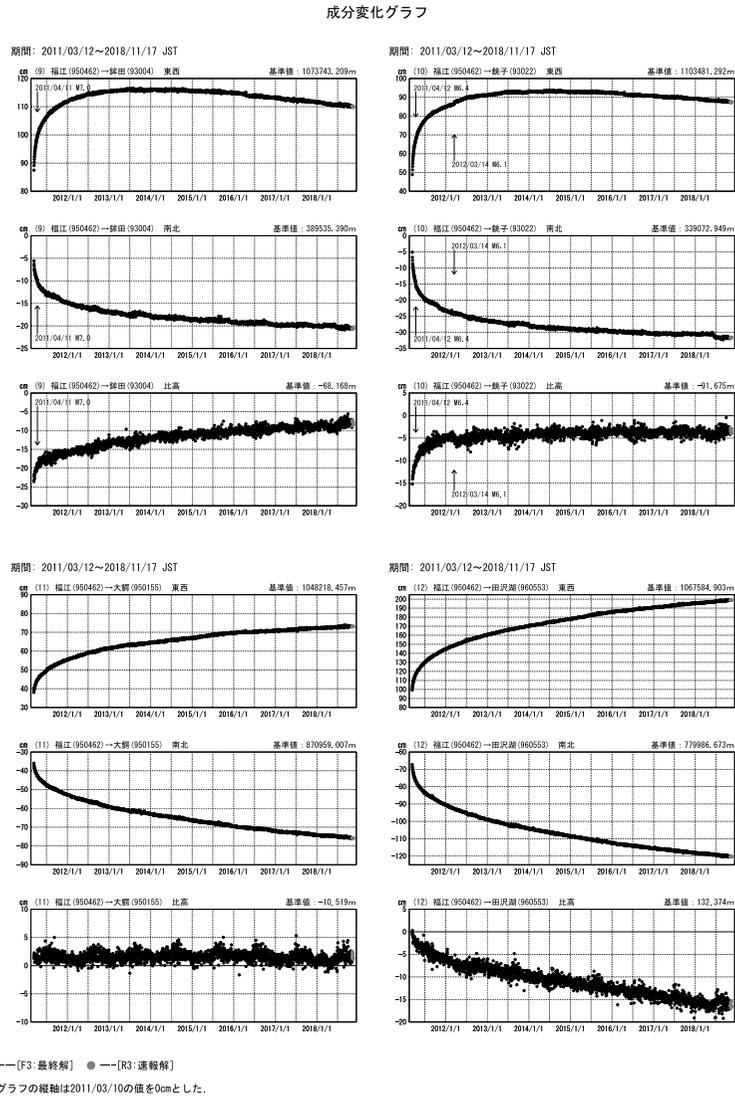
第7図 東北地方太平洋沖地震後の地殻変動
Fig. 7 Crustal deformation after the 2011 off the Pacific coast of Tohoku Earthquake (1/5).

平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震後の地殻変動（2）



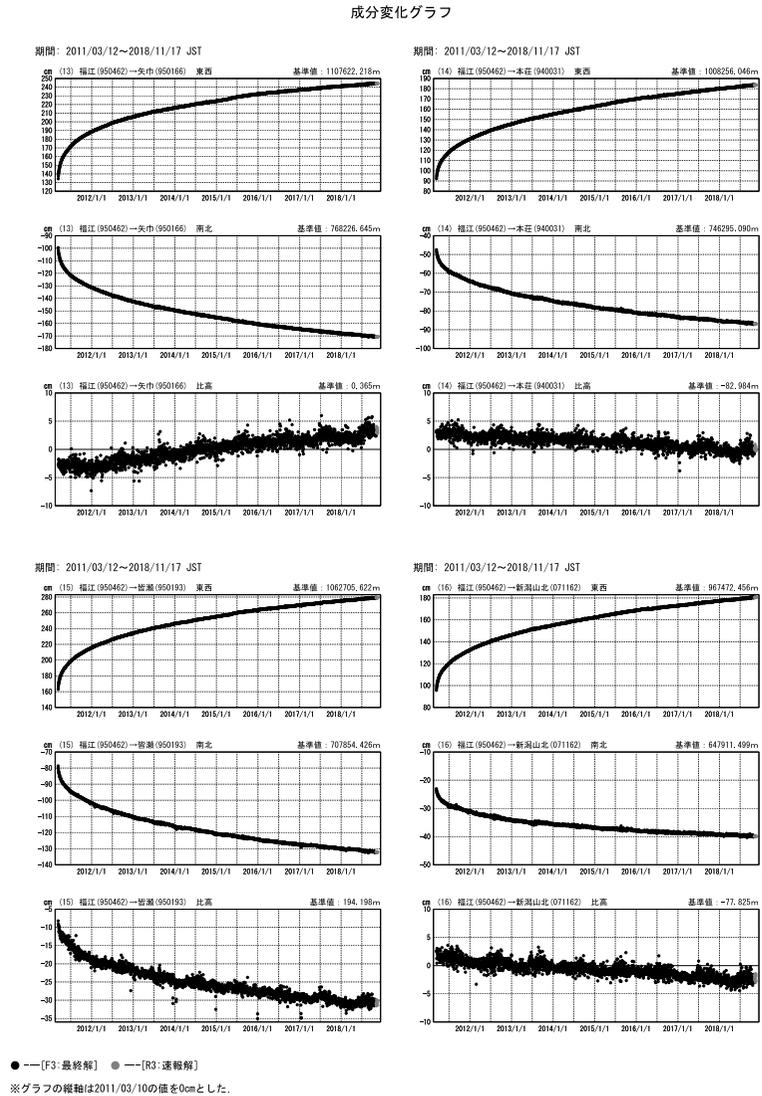
第8図 東北地方太平洋沖地震後の地殻変動
Fig. 8 Crustal deformation after the 2011 off the Pacific coast of Tohoku Earthquake (2/5).

平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震後の地殻変動（3）



第9図 東北地方太平洋沖地震後の地殻変動
Fig. 9 Crustal deformation after the 2011 off the Pacific coast of Tohoku Earthquake (3/5).

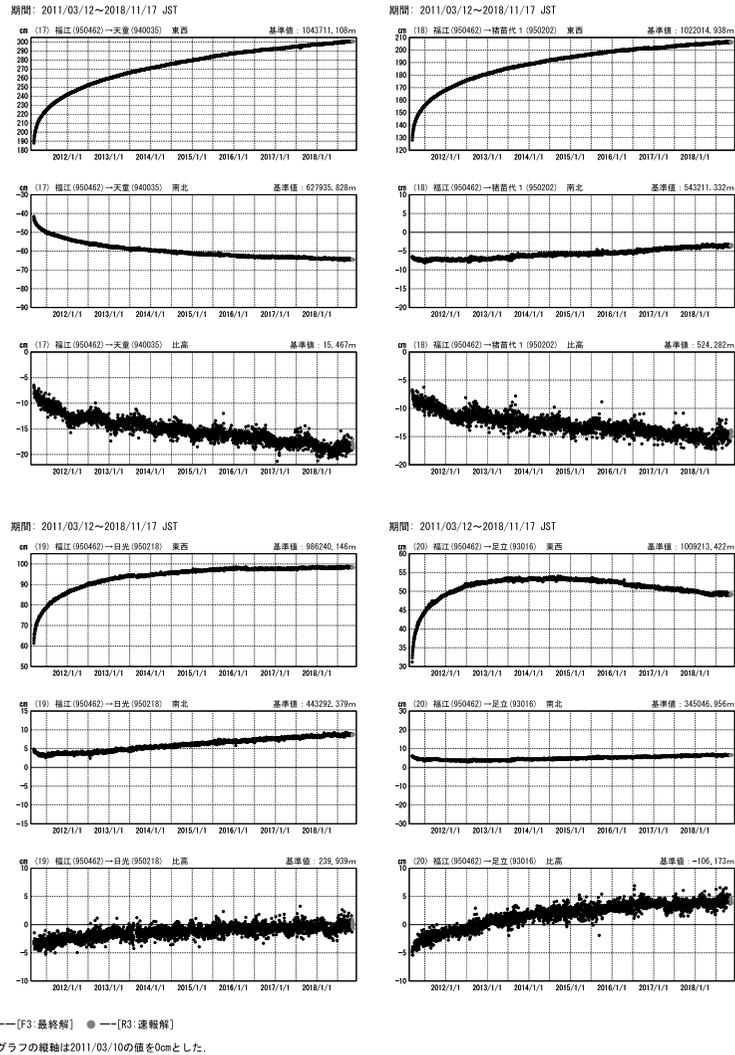
平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震後の地殻変動（4）



第10図 東北地方太平洋沖地震後の地殻変動
Fig. 10 Crustal deformation after the 2011 off the Pacific coast of Tohoku Earthquake (4/5).

平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震後の地殻変動（5）

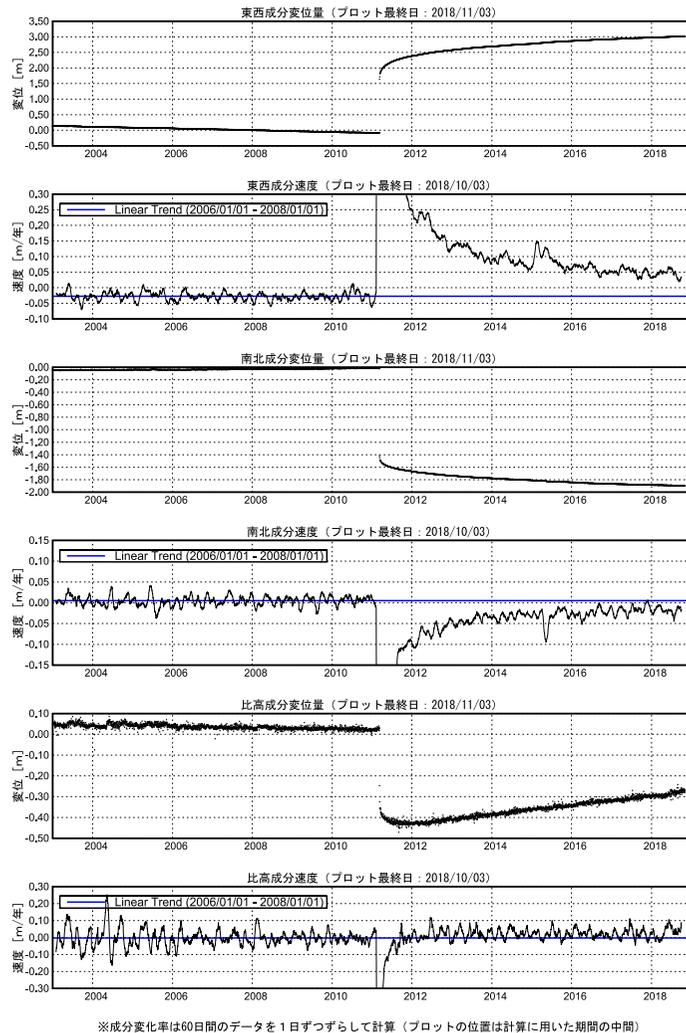
成分変化グラフ



第 11 図 東北地方太平洋沖地震後の地殻変動
 Fig. 11 Crustal deformation after the 2011 off the Pacific coast of Tohoku Earthquake (5/5).

平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震前後の地殻変動

東北地方太平洋沖地震後に沈降し、その後隆起に転じた。
 2015年2月17日に発生した三陸沖の地震に伴う地殻変動の影響が見られる。
 2015年5月13日に発生した宮城県沖の地震に伴う地殻変動の影響が見られる。
 三隅 (950388) -- 宮古 (940028) 間の成分変位と速度グラフ

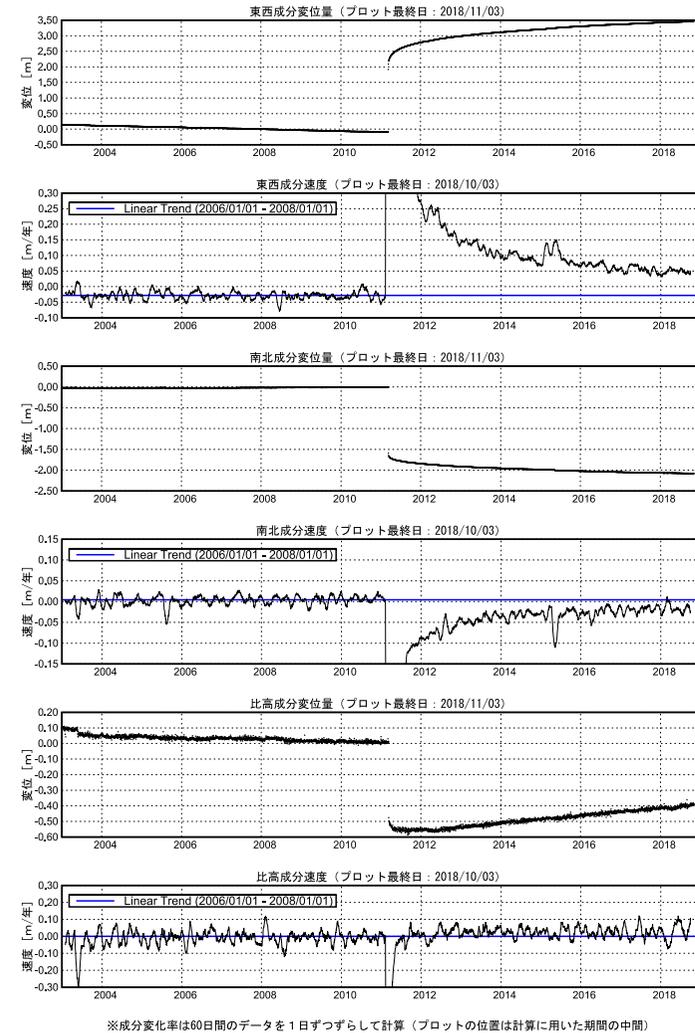


第 12 図 東北地方太平洋岸のGEONET観測点における地殻変動速度の変化 (宮古観測点・時系列)

Fig. 12 Crustal movement velocity change at GEONET sites along the Pacific coast of Tohoku area (Time series at Miyako site) (1/6).

平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震前後の地殻変動

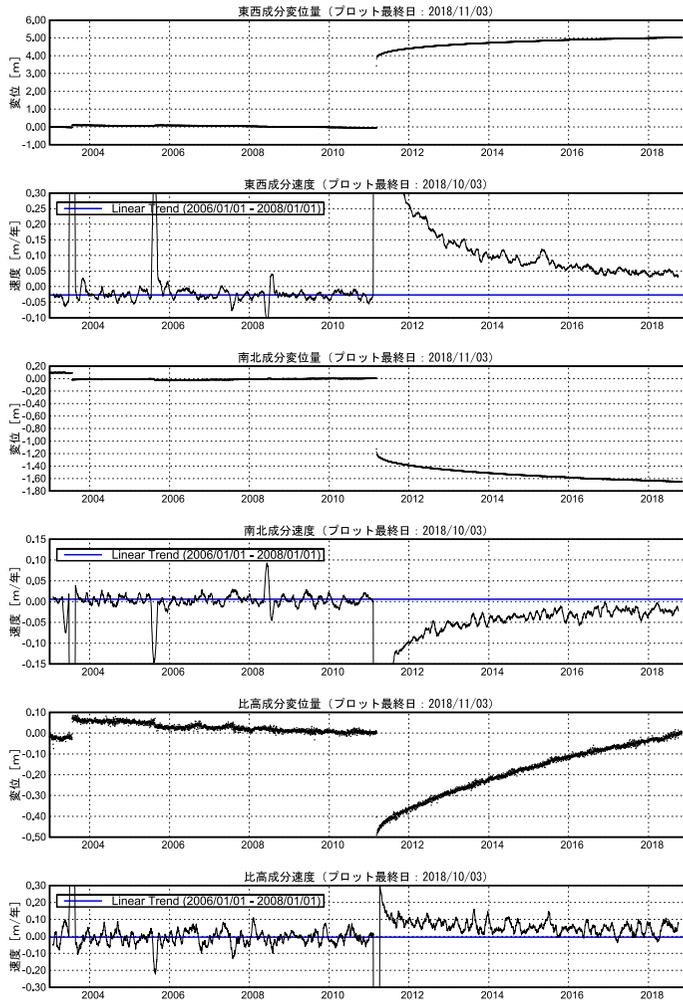
東北地方太平洋沖地震後に沈降し、その後隆起に転じた。
 2015年2月17日に発生した三陸沖の地震に伴う地殻変動の影響が見られる。
 2015年5月13日に発生した宮城県沖の地震に伴う地殻変動の影響が見られる。
 三隅 (950388) -- 山田 (950167) 間の成分変位と速度グラフ



第 13 図 東北地方太平洋岸の GEONET 観測点における地殻変動速度の変化 (山田観測点・時系列)

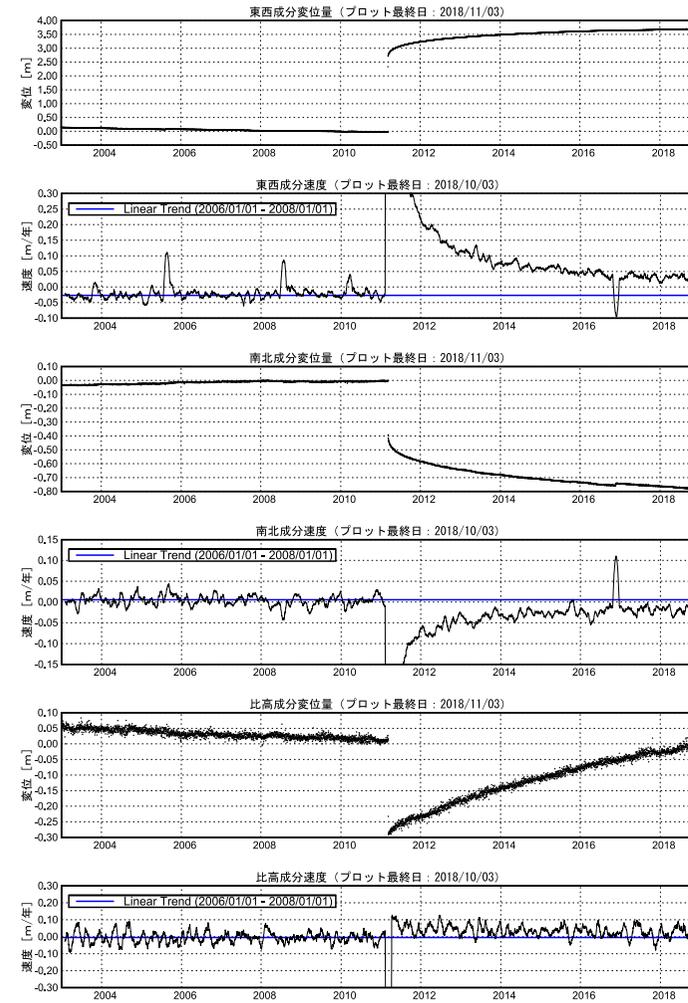
Fig. 13 Crustal movement velocity change at GEONET sites along the Pacific coast of Tohoku area (Time series at Yamada site) (2/6).

平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震前後の地殻変動
 東北地方太平洋沖地震発生前の変動速度には戻っていない。
 2015年5月13日に発生した宮城県沖の地震に伴う地殻変動の影響が見られる。
 三隅(950388) — 矢本(960549) 間の成分変位と速度グラフ



※成分変化率は60日間のデータを1日ずつずらして計算（プロットの位置は計算に用いた期間の中間）

平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震前後の地殻変動
 東北地方太平洋沖地震発生前の変動速度には戻っていない。
 2016年11月22日に発生した福島県沖の地震に伴う地殻変動の影響が見られる。
 三隅(950388) — 相馬1(940038) 間の成分変位と速度グラフ



※成分変化率は60日間のデータを1日ずつずらして計算（プロットの位置は計算に用いた期間の中間）

第 14 図 東北地方太平洋岸の GEONET 観測点における地殻変動速度の変化 (矢本観測点・時系列)

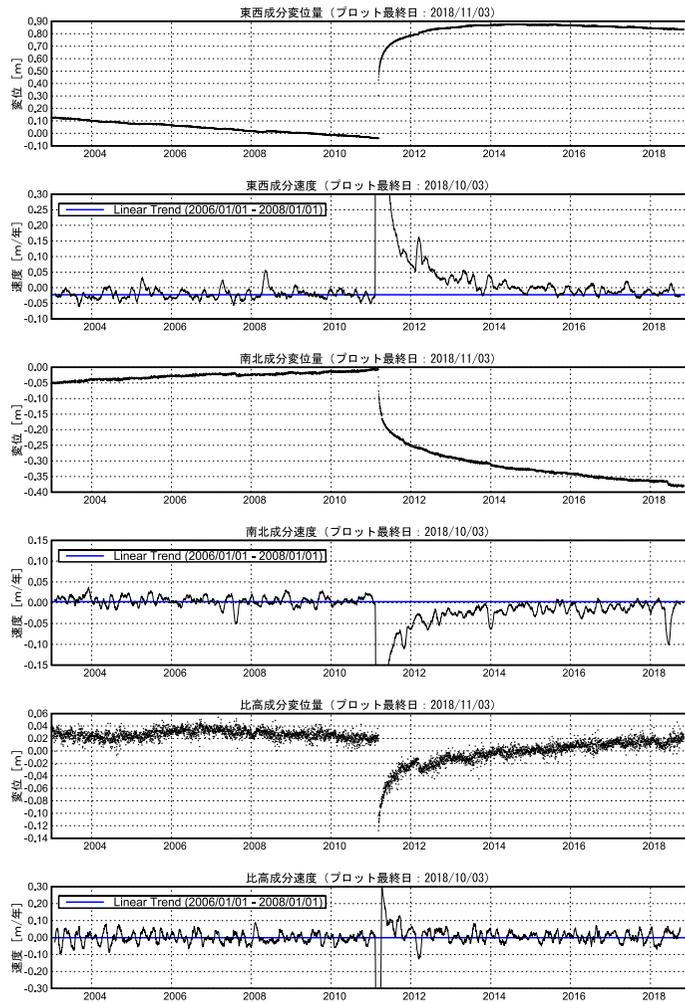
Fig. 14 Crustal movement velocity change at GEONET sites along the Pacific coast of Tohoku area (Time series at Yamoto site) (3/6).

第 15 図 東北地方太平洋岸の GEONET 観測点における地殻変動速度の変化 (相馬1観測点・時系列)

Fig. 15 Crustal movement velocity change at GEONET sites along the Pacific coast of Tohoku area (Time series at Souma 1 site) (4/6).

平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震前後の地殻変動

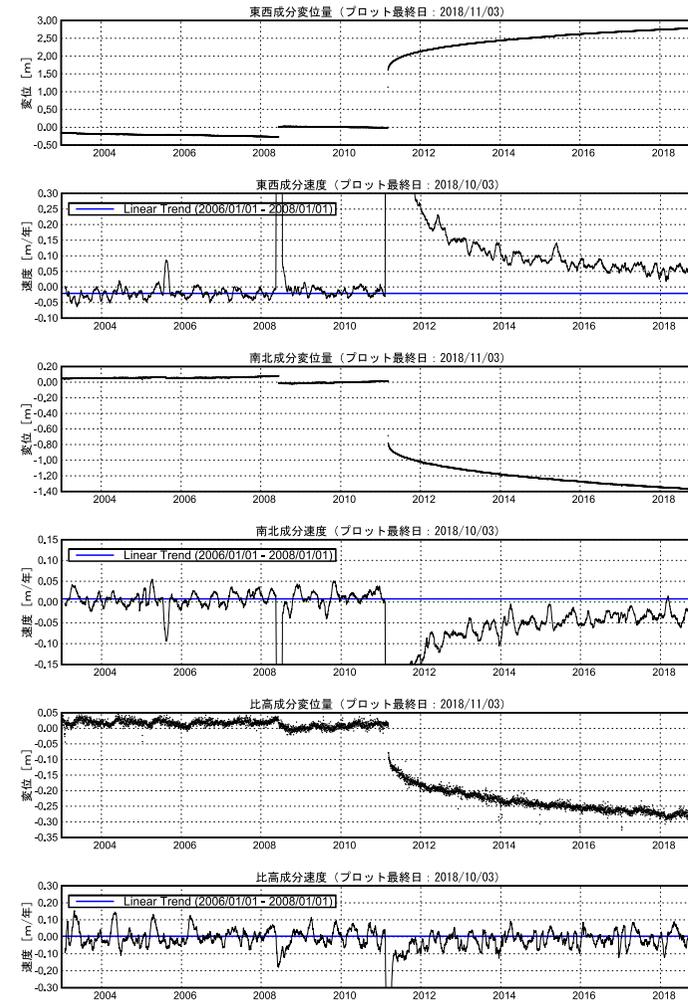
上下成分については東北地方太平洋沖地震発生前の変動速度に戻ってきたが、水平成分については戻っていない。
 2011年10月下旬、2014年1月上旬頃、2018年6月上旬頃に房総半島で発生したスロースリップ現象に伴う地殻変動の影響が見られる。
 2012年3月14日に発生した千葉東東方沖の地震に伴う地殻変動の影響が見られる。
 三隅 (950388) -- 銚子 (93022) 間の成分変位と速度グラフ



※成分変化率は60日間のデータを1日ずつずらして計算（プロットの位置は計算に用いた期間の中間）

平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震前後の地殻変動

東北地方太平洋沖地震発生前の変動速度には戻っていない。
 2015年5月13日に発生した宮城県沖の地震に伴う地殻変動の影響が見られる。
 三隅 (950388) -- 皆瀬 (950193) 間の成分変位と速度グラフ



※成分変化率は60日間のデータを1日ずつずらして計算（プロットの位置は計算に用いた期間の中間）

第 16 図 東北地方太平洋岸の GEONET 観測点における地殻変動速度の変化（銚子観測点・時系列）

Fig. 16 Crustal movement velocity change at GEONET sites along the Pacific coast of Tohoku area (Time series at Choshi site) (5/6).

第 17 図 東北地方太平洋岸の GEONET 観測点における地殻変動速度の変化（皆瀬観測点・時系列）

Fig. 17 Crustal movement velocity change at GEONET sites along the Pacific coast of Tohoku area (Time series at Minase site) (6/6).